

外来診療のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土日・祝
9:00 ~ 12:00 (受付 8:30~11:30)	渡邊 裕志	渡邊 裕志	渡邊 裕志	成田 渉	今田 元	休診
午後	休診					

新患を含め、外来リハビリをご希望の方は**完全予約制**です。  
事前にお問い合わせください。



予約・お問い合わせ **022-351-8118**

[受付時間] 9:00 ~ 17:00 (月~金)

編集後記

「Link!」をご覧いただきありがとうございます。早くもリニューアル後2回目の広報誌作成となりました。慣れないところもあり、みんなで相談しながら作成しています。どんな病院か、どんな人が働いているかなど、当院に興味を持っていただくきっかけになればと思っています。ご意見、ご要望がありましたら教えていただけたら幸いです。

寒い日が続いていますので、体調を崩さず過ごしていきたいですね。次号は1月発行予定です。

地域医療連携室 白田

仙リハいきいきFARM♪



大根が元気に育っています！

医療法人社団脳健会  
仙台リハビリテーション病院  
地域医療連携室

〒981-3341 宮城県富谷市成田1-3-1  
Tel: 022-351-8118 (代表) 022-346-8497 (直通)  
Fax: 022-351-8126  
ホームページ: <http://www.sendai-reha.or.jp>



仙台リハビリテーション病院  
ホームページ

[関連病院]  
仙台東脳神経外科病院  
〒983-0821  
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12-1  
Tel: 022-255-7117 Fax: 022-255-7760



Link!

2022.10 Vol.20



Topics 就労支援について

Notice 就労支援課題

この仕事を選んだきっかけ

私の主な仕事は回復期リハビリテーション病棟の入院患者さんおよび高次脳機能障害が生活上の問題になっている外来患者さんの診療です。脳卒中の急性期治療ではなくリハビリテーション（以下、リハビリ）を仕事に選んだのは、病院見学を通じてリハビリ科の専門性を知る機会に恵まれたことが大きく影響しています。

卒業時点では脳神経内科医として脳卒中診療に関わろうと考えていました。初期研修医で脳梗塞の患者さんを受け持つ間に、療法士の助言通りにリハビリの指示を出し、ときどき訓練室に顔を出すことはありましたが、リハビリがどう役立つのか分からないままでした。思い切って訪ねたりハビリ病院の見学で知った診療科の特殊性や専門性に興味をひかれ、見学を重ねるなかで現在の仕事にするに至りました。

介入の対象が疾患ではなく手足の麻痺や歩行障害といった機能や活動の障害であること、手段に機能訓練、環境調整があること、機能訓練を支える原理として運動学、運動学習理論があることなど、どれもこれも新鮮でした。

訓練は療法士が行うため、見学の当初は医師の専門性が実感できませんでしたが、経過や画像所見に基づく障害像の推定、リハビリの効果把握したうえでの介入目標と必要期間の設定を、医師自らが行うために専門的な知識が要求される仕事であることを教わり、その知識の

断片に触れながらリハビリを専門にする気持ちが固まってきました。

診療で障害像の把握が最も困難だったのが高次脳機能障害でした。この障害の理解を深めたいと考え、東北大学の高次脳機能障害学講座に学びの場を移しました。

東北大学在籍中および現在までの当院の診療のなかで様々な症状の方を担当しました。視覚性物体失認（見えてはいるけれど触るなどしないとそれが何かわからない）、聴覚失認（音は聞こえるけれどもそれが何の音かわからない）等、成書で目にしていたものの実際に診療で関わったときにはそれぞれが大変印象的でした。

医師 成田 渉



## 就労支援について

脳血管障害の発症年齢をみると、近年は高齢者だけでなく40～60歳台での発症も多く見られるようになってきています。当院でも患者様やご家族から仕事へ復帰したいと希望が挙がることもあり、あくまでも状況に合わせてではありますが、入院中の段階から就労に関連する評価や就労支援に取り組んでおります。

「就労」＝「収入を得ること」でしょうか。私達は、「就労」とは人と繋がるという実感や他者に必要とされ、役に立つことで得られる満足感も含まれていると考えています。患者様が残された機能を最大限に利用することや能力を再獲得されることで、職種や社会復帰の方法について患者様と相談しながらすすめるよう

に努めております。当院では就労支援の一つとして「ワークサンプル幕張版」を使用しています。メリットとしては、就労に関する具体的なリハビリの進め方がマニュアル化されており、データの信頼性が高いことや残存能力を高める訓練要素も含んでいることです。

就労支援は、病院だけで完結するものではなく退院されてからも必要となります。入院中の取り組みを通して「就労移行支援事業」など福祉サービスへの架け橋となれればと思います。

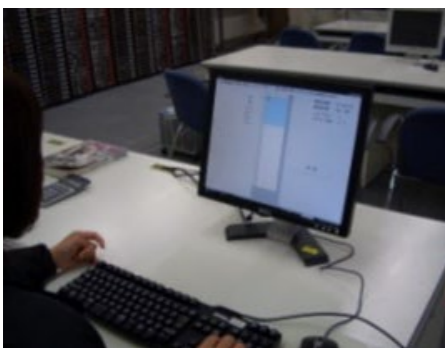
リハビリテーション部主任 作業療法士 小野 智美

## 就労支援課題の紹介

作業療法では、身体的な機能訓練だけでなく日常生活に必要な動作練習の実施や、就労に関する支援を行なっております。就労支援の一つとして、今回ご紹介するのは、職業能力や作業遂行能力の評価やトレーニングができる『ワークサンプル幕張版』です。

『ワークサンプル幕張版』は障害者職業総合センター障害者支援部門で開発された、就職を目指している障害のある方や職場復帰を目指している休職中の方に使用されるツールです。

課題は大きく①パソコン作業②事務作業③実務作業の3つで構成されています。



①パソコン作業では、PCを操作して指示通りにデータや文書を入力する課題、指示書に基づいてデータを読み出して修正を行なう課題などがあります。



②事務作業では、納品書に沿って請求書の誤りを訂正する課題、指示された条件にそって作業日報を集計する課題などがあります。



③事務作業では、納品書に沿って請求書の誤りを訂正する課題、指示された条件にそって作業日報を集計する課題などがあります。

これらの課題を通して、患者様が持つ得意・不得意の特徴を捉えることで、より具体的に職場適応に必要な環境や配慮事項を共有できるよう努めています。

リハビリテーション部主任 作業療法士 小野 智美

## 仙リハ コラム ～ 検査室より～

## 当院で行う検査 『In Body』

当院での入院後の検査の一つに『InBody検査』があります。

InBody?初めて耳にする方も多いのではないのでしょうか。InBodyとは、微弱な電流を体に流し、電気の流れを邪魔する抵抗値を求めることで、体内の水分や筋肉、脂肪など様々な体成分を調べる検査です。この検査は、ペースメーカーをしている方以外であれば誰でも測定ができます。また、四肢のいずれかを切断していたり、浮腫の強い方でも検査は可能です。

当院では、月に1回のペースでInBodyの測定を行っておりますが、1日2～3回のリハビリを実施しておりますので、定期的にInBodyの測定を行うことで、四肢と体幹に分けて筋肉均衡を見ることができ、上下半身の筋肉の発達程度や左右の均衡も分かるため、運動療法の判断基準になります。また、部位別に浮腫の評価が可能なので、モニタリングを行い、正しい運動療法と栄養管理を行うことで、病気の早期発見にも繋げることができます。

また、筋肉量が減り体脂肪量が増えるとサルコペニア(筋肉減少症)の可能性があります。体成分を知ることで健康へのリスクを理解して、サルコペニアの予防にも努めていただければと思います。毎日のリハビリや食事調整等、頑張った内容が徐々に結果として反映されますので、日頃の成果を実感できる検査となっております。InBodyの測定結果が気になる方は、是非お気軽にお尋ねください。

検査室 臨床検査技師 遠藤 美穂



## ご質問にお答えします!



**Q** 面会はできますか?

**A** 新型コロナの感染対策として、対面での面会は現在行っておりません。予約制で短時間、ガラス越しで面会していただいております。詳細は入院時にご説明いたします。

**Q** 入院セットはありますか?

**A** パジャマのレンタル(1日77円)を行っております。オムツなどの消耗品や、衣類、バスタオル等のご持参いただいております。

